

足立区地域保健福祉推進協議会

第7回地域保健福祉計画策定部会 会議録

開催日時:令和5年11月7日(火)午前10時から正午まで

開催方法:対面とwebの併用

開催場所:足立区役所本庁舎8階 特別会議室

《午前10時開会》

1 部会長挨拶

2 報告事項

(1)地域懇談会ワークショップでの意見交換について《事務局から報告》

【委員】得られた意見は大変貴重なものである。これらを計画策定に十分活かしてほしい。第6回策定部会(10月23日:書面開催)の資料5ページに、地域課題が書かれているが、適切な課につなぐこと、多機関の協力による支援、民生・児童委員など、必要に応じて様々なネットワークを作る仕組みが必要だと思う。

自分の近隣の方からの相談では、両親が亡くなり、祖父母に引き取られた中学生が暴力的になり手が付けられず、学校にも行かなくなり、同居の祖母はうつ症状になったという話があった。

そのような状況にあっても、本人たちは声を上げられず、自分からは相談に行けないからこそ、アウトリーチが必要であり、伴走型支援で支えていくことが重要になる。

同資料の5番目の経済的な困窮についても、支援を必要とする人がたくさんいる。現行の社会保障制度では解決できない様々な問題があるが、見守りながらの伴走支援を望む。また、国・都の制度改善への提言につながる計画が望まれるのではないかな。

→(事務局)第6回書面開催の資料の内容で、本日の別紙資料2の38ページが該当する。区としては、重層的支援体制の整備として対応していく。現在、令和6年度からの組織改正に向け検討しているところである。福祉分野以外の相談も受けるし、多機関との協力も図っていく。詳細が決まり次第共有したい。

【部会長】別紙資料2:45 ページの重点課題にもつながってくる部分である。

(2)パブリックコメントの実施について《事務局から報告》

【部会長】計画の策定状況としては、まだまだ調整中の内容も多い段階にある。パブリックコメントの時期を、後ろにずらすことは考えられるか。

→(事務局)調整する。

【部会長】途中経過として、パブリックコメントを実施し、内容が固まって時点で再度区民の皆さんに見てもらおう機会を設けてもよいかもしれない。

【委員】パブリックコメントの周知方法のところには、ぜひ民生・児童委員協議会も入れてもらいたい。

【部会長】別紙資料2(計画素案)を出していただいたが、重要なところがまだまだ書き込まれていない。パブリックコメント前には、委員の皆さんの目通しが必要と思う。その辺の調整をお願いしたい。

3 議事事項

(1)計画構成全体の修正について《事務局から説明》

意見なし

(2)地域保健福祉計画(素案)第1章～第3章について《事務局から説明》

【委員】別紙資料2:43ページ基本方針①に「年齢・性別・障がいの有無にかかわらず誰もが健康で暮らせる」とあるが、表現に悩んでいる。病があっても、障がいがあっても、誰もが主体的に暮らせることが重要と考えている。自分が生きたいように生きられることを目指すといったことが近年言われているが、有識者のご意見を伺いたい。

【委員】同意見である。「健康」と表現してしまうと、完全な健康をイメージされる方が多くなることが懸念される。誤解のない表現を用いることが必要ではないか。

また、基本方針①「年齢・性別・障がいの有無にかかわらず誰もが健康で暮らせる」と②「すべての子ども・若者が生き抜く力を育める」は非常に似た内容となっている。そこをうまく掛け合わせることで、すべての人にとっての生き抜く力、あるいは過ごしやすい足立区、といったところを目指す形にしてもよいのではないか。

→(事務局)表現を検討したい。

【委員】別紙資料2:47ページで、基本方針と重点課題が横並びで書かれているが、それぞれが対応していないように見えるがどうか。

→(事務局)基本方針と重点課題は、対応させているわけではない。対応させるか、対応しているものとして見えないような表現を検討する。

【委員】同ページは、左から右へ流れていくことを意識されているかと思うが、基本方針から重点課題へは、単純に流れていかないものもある。全体としての重点課題も含め、整理・検討していただきたい。

【委員】“健康”の定義に関しては、「誰もが生きがいをもって暮らせる」といった表現が用いられることもあるので、参考にしてもらいたい。

【部会長】別紙資料2:50ページで、設定されている目標値として、虐待の通報件数・自殺者数に違和感がある。件数が多いほどよいものではないし、自殺者は0を目指

すものである。目標値の中身によっては、馴染まないものもあるように思う。担当部署とも相談してもらいたい。

【委員】先日西新井住区センターの事業が行われたが、区長は挨拶をした後すぐに帰られてしまった。もう少し地域の皆さんと話をしてもらえるとよいが、どう考えるか。

【事務局】区長のスケジュールまで把握はできていないが、意見として区長に伝える。今後、懇談会を含め、地域とのコミュニケーションいかに図っていきけるかを考えていきたい。

【委員】積極的に認め・つながるといふことの実現のためには、区の職員に積極的に動いてもらいたい。

→(事務局) 計画策定と同時に、職員の意識改革も必要だと考えている。職員研修のやり方等も含め対応していきたい。

【委員】別紙資料2:49,50ページの施策指標管理表について、包括的相談事業を4項目に分けた経緯があれば教えてもらいたい。

→(事務局) これから進めていく重層的支援体制に関する部分で、アウトリーチは足立区の方策の一つにしていきたいと考えている。アウトリーチを行っていくには、地域からの発見・気づきも必要だと考えることから、分けて設定した。活動指標が多くなっているが、相談してよかったと思ってくれる方が少しでも増えてくれればという思いから、アンケートによる満足度も設定を考えている。

【委員】「アウトリーチによる相談支援件数」「地域からの気づきによる地域課題の把握件数」「重層的支援体制会議開催回数」は、値が件数なのでわかるが、「アンケート結果」を指標として扱うのは難しいのではと感じた。仕組みづくり等、スムーズにいくように検討していただきたい。

【委員】別紙資料2:43ページ基本方針④「ひとりも取り残さない包括的な相談支援体制を築く」は素晴らしい体制だと思うが、「重層的」というところが最も難しいと思うが、こうした体制があるのはありがたい。この方針に区としての覚悟が見えた。

【委員】掲載する指標は、今後もう少し増えていく予定か。

→(事務局) 指標自体の精査は行すが、数はお示ししている程度を想定している。細かくは個別計画で対応し、そのうち主だったもの、この計画に資するものをピックアップし掲載していく。

【委員】相談件数の扱いは非常に難しい。施策を実施した結果、解決したというような指標を設けられないか。例えば不登校の対策では、どのくらい改善したかを掲載するのがよいのでは。

【部会長】指標の取扱いは改めて検討いただけるとよい。

→(事務局) 解決までいかなくとも、つながることで評価できる面もあると考えている。解決した数は難しいと感じているが、見直しを含め検討したい。

【委員】どのくらい支援につながったのかという指標はどうか。相談から支援につながる
ことが難しいと感じている。

→(事務局)今は活動指標しか選べていないため、庁内作業部会での検討も含め、
よりよい指標を検討したい。

【部会長】目標値ではなく、チェックしていく数値として示すことでも1つであるから参
考にされたい。

【委員】先日「みんな de いこう(伊興地域でのおまつり)」というイベントを行った。運営
側として、障がいを持っている方、子どもたちにも参加していただき、よく手伝って
くれた。人がつながることができる集まりをたくさんもつことが、大切だと改めて感
じた。計画は立派なものが出来ると思っているが、それを実現していくのは結局の
ところ区民である。区民がもっと集まれる方法を考えていただけるとよい。

【部会長】重点課題として掲げるとよいのではと考えたのが、小地域ごとのプラット
フォームづくり。つながれる場をどう創っていくか。そのように打ち出せるとより
明確になるのではと思う。ぜひ検討していただきたい。

【委員】先ほどのイベントで、区関係で協力してくれたのは社会福祉協議会と竹の塚保
健センターだけであった。区の職員にはぜひ現場を見てもらいたい。

(3)地域保健福祉計画(素案)第4章～第6章について《事務局から報告》

【委員】この計画は、福祉に関する内容を幅広く網羅するものと思うが、区として特に力
を入れる部分、例えば子どもの貧困・障がい者施策・がん検診率の向上など、さら
に重点を定め、第4～6章で事業計画を立てていくような考えはないか。

→(事務局)そこまでは考えておらず、各個別計画で事業を進めていく。区として
は、重層的支援の体制整備を行っていくのが大きなひとつであることから、
そこから様々課題が見えてくると考えている。まずは包括的な相談
体制の確立を目指したい。

【委員】衛生部門では、「健康あだち21」の中で、働く世代への対応とがん対策、次年度
には自殺対策計画の改定を予定している。今年度中にはデータヘルス計画の改
定も行う。医師会をはじめ関係機関に意見を求めていきたい。

【委員】それぞれの施策群の中で、重点的にはそれぞれの部署でと考えればよいか。

→(事務局)そうである。本計画の基本理念や方針を共有しながら、各個別計画
をそれぞれの計画で掲げていく。

【委員】今回実施したアンケートと懇談会では、様々な意見が出された。そこにどう応え
ていくかが、計画の中に見えるとうい。

→(事務局)重点課題に資する事業などを見せることを考えていきたい。そこには、
工夫と熱量も込めていきたい。

【委員】今回の計画は横断的ということを示し、各計画・各分野の団体が、それを意
識しながら6年間それぞれの取組みを進める。そのための共通理念をはっきりと

打ち出せるのがよいし、それが面白いと思う。

【委員】計画素案第6章資料編の各用語には、計画中の掲載ページも示されるのか。あわせて、別紙資料2:47ページで、基本方針②「すべての子ども・若者が生き抜く力を育める」については、保護者の支援も大切と考えている。保育園に通っている家庭はよいが、そうでない家庭とのつながりということは、重点課題としてあってもよいのではないかと。

→(事務局)用語解説には、計画書に出てくるもの以外も掲載予定だが、計画書にあるものについては掲載ページをお示しする。保護者支援についても、どのように盛り込むかを庁内作業部会で検討したい。

【部会長】保護者支援は、家族支援でもある。その体制を整えていくことを打ち出せるとよい。

【委員】計画素案第4章の目次に外国人支援とあるが、区内にどのくらいの外国人がいるのか、本当に支援が必要かなど、国別で資料編に掲載することはないか。

→(事務局)第2章(23 ページ)に掲載していく。資料編を含め、どこまで示せるかは検討する。

【委員】第4章のつくりとしては、計画素案53,54ページに示されている項目が、すべての施策に入ってくるという認識でよいか。

→(事務局)その予定である。

【委員】資料編のデータについて、例えば高齢者の数が出されているが、数だけでなく率も大事ではないか。イメージしやすいようになるとよい。

→(事務局)個別計画も見ながら、データの追加も検討する。

【委員】パブリックコメントの資料としては、調整中の部分もすべて埋められたものが示されるのか。また、まるごと相談課は福祉部につくるということか。人間的に難しいようにも思うが、どこかにつないでいく役割を担うことになるか。

→(事務局)その時お示しできるものは、すべて記載してお示しする。まるごと相談課は、お示ししている形で進めていく予定であるが、規模感や、どんな係がといった詳細は、これから詰めていくことになる。

【委員】まるごと相談課では、あらゆる相談をお受けする。支援としては、今ある窓口にきちんとつないでいくことになるが、進行管理はまるごと相談課を想定している。すべての案件を支援していくための課ではないが、相談は受けとめる。そのあたりは、今後もう少し明確にしていきたい。

【部会長】先行している自治体もある。それらも参考に、よい形のものを打ち出してもらいたい。

《正午閉会》